

法理論と実務の融合をめざし、明治の新しい伝統をつくる教員。

公法系

民事系

刑事系

基礎法系

展開・先端系

写真下は主な担当授業科目。 著作は記載がない場合でも共著を含むことがある。

国際感覚、人権感覚に富んだ 優秀な法曹家の育成に心がけたい。



憲法(統治)(人権)、憲法演習ほか
吉田 善明

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科博士後期課程中退、法学博士(明治大学)
【研究分野】憲法、比較憲法、選挙法、地方自治
【研究テーマ】現在、人権の生成と展開についての学説的研究に取り組んでいる。これまでは、主として、立憲制、財政民主主義、地方自治の研究をしてきた。
【主な著書】『日本国憲法論』(三省堂)、『政治改革の憲法問題』(岩波書店)、『議会・選挙・天皇制の憲法論』(日本評論社)、『地域からの平和と自治』(日本評論社)ほか多数

司法試験考査委員および経験者：7名
司法研修所教官ないし所付経験者：6名
裁判官および経験者：5名 検察官：1名 弁護士：9名

楽しく学習できるように工夫して下さい。 私も、楽しみながら指導します。



行政法、行政法演習ほか
西椋 章

【経歴】明治大学法学部卒、青山学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、法学博士(青山学院大学)
【研究分野】行政救済法、予防接種行政
【研究テーマ・活動実績】国家補償法体系の再構築。違法性概念を基礎として、国家補償法の体系的再構築を行う。厚労省の審議会の専門委員として、予防接種行政の改善に関与している。
【主な著書】『国家賠償責任と違法性』(一粒社)、『予防接種と法』(一粒社)、『注解法律学全集・国家賠償法』(青林書院)ほか多数

「人のための法」という視点から 新しい法科大学院の教育研究に取り組みます。



憲法(統治)(人権)、憲法演習ほか
江島 晶子

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院博士後期課程単位取得退学
【研究分野】憲法、国際人権法
【研究テーマ】憲法と国際人権条約の共生関係、イギリスにおける人権(1998年人権法とヨーロッパ人権条約)、ヨーロッパ人権裁判所の機構改革(憲法的地位)、政治資金と法制度
【主な著書、論文】『人権保障の新局面』(日本評論社)、『イギリスにおける人権保障の新展開』(ジュリスト1244号)、『人権保障システムにおけるヨーロッパ・システムと国内システムの「共生」』(明大社研紀要41巻2号)ほか多数

比較法・判例・行政実務知識による 問題解決志向型情熱憲法学を目指します。



憲法(統治)(人権)、憲法演習ほか
清野 幾久子

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
【研究分野】ドイツ連邦憲法裁判所の判例研究
【研究テーマ・活動実績】『憲法と環境』を中心に、日本の憲法学への影響が大きく理論も緻密なドイツの判例理論を研究。情報公開・個人情報保護審査会歴9年での行政実務を学ぶ。
【主な著書、論文】『ドイツの最新憲法判例』(共著、信山社)、『憲法の歴史と比較』(共著、日本評論社)、『個人情報利用取引と個人情報保護法制』(ジュリスト1114号)、ムアスヴィク「環境法と基本法 近時の判例動向」(翻訳、法律論叢75巻6号)ほか多数

私の指導方法のねらいは、憲法の基本原理を正しく学んでいただくことにある。そして、新しい人権感覚を持って、よき法曹人になってほしいのであります。



憲法演習、公法系総合演習(憲法)ほか
野上 修市

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】憲法学、教育法学
【研究テーマ】違憲審査制、私学助成、政党助成、大学改革、行政改革等
【主な著書】『解説憲法』(住宅新報社)、『新解釈日本国憲法』(東京教学社)、『「行政改革」の開幕と行方』(新日本法規)ほか多数

アメリカのロースクールでの客員研究員としての 経験を本学において生かしたい。



行政法演習、公法系総合演習(行政法)ほか
猪股 弘貴

【経歴】東北大学法学部卒、早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、博士(法学・早稲田大学)
【研究分野】行政法から憲法にわたる公法全般
【研究テーマ】わが国の行政裁判制度の成立と展開、アメリカ公法、法(特に憲法)解釈の方法
【主な著書、論文】『憲法論の再構築』(信山社)、『ブッシュ対ゴア連邦最高裁判決とその含意』(小樽商科大学『商学研究』53巻1号)ほか多数

法科大学院では、「自主自律的に学び」、 「自覚的に法曹能力を養う」ことを望む。



民法(総則・契約)、民法(損害賠償法)ほか
伊藤 進

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科修士課程修了、弁護士(東京弁護士会)
【研究分野】民法、消費者私法、教育私法
【研究テーマ】民法の体系化、実体担保法と手続担保法の関係、三当事者法律行為論の研究
【主な著書、業績】『私法研究著作集』全13巻(信山社)、『私法研究論文集』全2巻、教材『民法の体系を学ぶ』(ビデオカセット全30巻)ほか多数

人権の視点から、法の支配・判断基準・ 家族法の質を問う法曹教育を指向します。



家族法、民法演習ほか
若林 昌子

【経歴】同志社大学法学部卒、司法修習修了、元裁判官(1965-1999年)
【研究・活動分野】家族法、LAW ASIA
【研究テーマ・活動実績】離婚手続法における子の権利、法定相続と遺言相続の競合。NGO日本女性法律家協会における活動。
【主な論文】『家事事件における子の意思』(石川裕外編『家族法改正への課題』)、『遺産分割調停事件プロセスモデルについて』(家月51巻7号)ほか多数

最短で新司法試験に合格できるよう お互いに頑張りましょう。



商法、商法演習ほか
泉田 栄一

【経歴】新潟大学文学部法律学科卒、一橋大学大学院法学研究科博士課程中退
【研究分野】商法
【研究テーマ】比較会社法、有価証券法
【主な著書】『小島康裕教授退官記念・現代企業法の新展開』（編著、信山社）『有価証券法理と手形小切手法』（中央経済社）『国際電子銀行業』（翻訳、信山社）ほか多数

激しく変化する企業社会とその法的諸問題を 一緒に学び、考えよう。



商法、商法演習ほか
河内 隆史

【経歴】中央大学法学部卒、中央大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】商法、証券取引法、商品取引所法
【研究テーマ】株式会社の機関に関する研究 株主総会と取締役、日米独自の取引所法制の比較法的研究
【主な著書、論文】『新商法の解説 会社法』（一橋出版）、『商品取引所法』（共著、商事法務）、「取締役解任の訴について」（法学新報96巻3・4号）ほか多数

効率よりも愚直でいい。雑草のように遅い 法律家を育てたいと思っています。



民事訴訟法、民事訴訟法演習ほか
中山 幸二

【経歴】早稲田大学法学部卒、早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】民事訴訟法、倒産処理法
【研究テーマ】手続保障の欠缺と救済方法、既判力の安定性とその限界、消費者の裁判を受ける権利
【主な著書、論文】『ファンダメンタル民事訴訟法』（共著、不慮書房）、「民事訴訟における送達の手続保障」（神法31巻1号）、「手続の進行 期日・期間・送達」（法学教室242号）ほか多数

常に自分へ問いかけている言葉 「理解しやすい講義ができたろうか？」



民法（財産権）ほか
林 幸司

【経歴】立命館大学法学部卒、立命館大学大学院法学研究科博士課程前期課程修了
【研究分野】民法、特に財産法
【研究テーマ】法律行為の無効・取消・解除など効力否定概念の研究、類推適用の限界と法構造に関する研究、代理権の無因性に関する研究、排斥期間論、自然債務論
【主な著書、論文】『条文にない民法』（共著、日本評論社）、「錯誤無効」「取消への接近」とその限界」（法律時報72巻2号）、「無効と取消の二重効」（精編『法律行為無効の研究』日本評論社）、「原因別にみた無効」（別冊NBL66号）ほか多数

自ら学ぶ気概と意力ある学生に対して 緩急自在に投球する。打ち返してほしい。



民事訴訟法、民事訴訟法演習、
裁判法ほか
青山 善充

【経歴】東京大学法学部卒、司法試験合格、元東京大学副学長
【研究分野】民事手続法一般、仲裁法、ADR
【研究テーマ】倒産法の変遷、仲裁法・ADRの立法論、民事手続法制の歴史
【主な著書、論文】『証拠の評価と証明責任』（中野・松浦・鈴木編『新民事訴訟法講義』有斐閣）『明治前期の法と裁判』（共編、信山社）『世界の仲裁法規』（編集、別冊NBL78号）ほか多数

合格のためには勉強あるのみ。 一緒に勉強していきましょう！



商法、商法演習ほか
松山 三和子

【経歴】中央大学法学部卒、中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
【研究分野】会社法・手形小切手法
【研究テーマ】大規模株式会社の経営監視制度、機関投資家に関わる法律問題
【主な論文】『コーポレート・ガバナンスと経営監視機関』（『新しい商法・会計と会計財務』泉文堂）、「除権判決と株券失効制度」（法学新報第108巻9・10合併号）、「投資会社法のピラミッディング禁止規定」（『現代企業・金融法の課題（上）』信山社）ほか多数

応用できる民法を目指す！



民法（総則・契約）民法（財産権）、
民法演習ほか
工藤 祐巖

【経歴】千葉大学文学部法経学科卒、一橋大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
【研究分野】責任財産の保全、専門家責任など
【研究テーマ】これまで、債権者代位権を中心に責任財産保全制度を主たる研究テーマとしてきた。最近では、担保法など金融法取引における民法の諸問題に関心を持っている。
【主な著書】共著の教科書として、『要論民法総則（改訂版）』、『要論物権法』、川井・鎌田編『債権総論』など（いずれも青林書院）

正確な知識だけが役に立つ知識である。 類似する諸制度と関連づけた理解を！！



民法（総則・契約）民法演習ほか
三林 宏

【経歴】早稲田大学法学部卒、早稲田大学法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】民法の財産法
【研究テーマ】集合債権担保、抵当権、権利消滅期間（消滅時効・除斥期間）、法律行為論、リース取引など
【主な論文】『集合（流動）債権担保の有効性』（玉田弘毅先生古稀記念論集）信山社）、「集合債権譲渡担保 予約型の役割・機能を中心として」（NBL766号商事法務）ほか上記分野の諸論文多数

COLUMN / 人権

生活に密着した人権意識を持ち続けたい。

人権を問題にする時、私たちの関心はかなり大きな問題に向かいます。社会に根強く残る差別、人種差別、性差別、貧富の差別と、こうした問題群は社会的注目度も高く大事な問題です。しかし、これらの問題へと向かう心の動きのうち、もう少し直接的で強い感情があるに違いありません。

たとえば医者になりたいと思う人たちが、近親者や愛する者の死と病気に直面して自分が無力であった悔しさをその動機にあげることがあります。法律家になろうとする人々のうちにも、こうした直接的な動機を持つ人たちがきっといることでしょう。無力なままにいる者たちの傍らに共に立ってほしいという動機です。法科大

学院が法律家になろうとする人々を迎えるとき、こうした動機こそとても大切にしたいのです。行政や司法の救済と支援から放置された人々や社会のうでで犠牲になっている人々を、法律の力によって支える本当の意味での市民の側に立った法律家がいてほしいのです。

今日、広範な分野で女性が社会に参画し社会の流動性を加速しています。社会のうちにこの流動性を当然のこととして迎える準備がなければ、企業やあるいは様々な組織のうでで、女性の権利をめぐる問題が起きます。

社会的流動性には、将来の外国人労働者の問題や難民の問題もきっと入ってくるでしょう。

法律が問題が起こることに先駆けて動くことはまずありません。しかし、法律は動かなくてもそれに先じて法律家は動くことができます。それこそ法律家の役割です。

社会の流動性に法律が追いつかない事態が生まれるとき、様々な人権上の問題が生まれます。そうしたとき、この事態を座視することなく一歩前へ進んで彼らの傍らに行く勇気が法律家にはきっと必要です。キャリアアップやエリートになる手段としての民法を捉えることなく、社会のうちに生き、社会の問題に常に関わろうとする法律家を育てたい。それが法科大学院の生命線と言えるかもしれません。

法的論点の検討・整理を通して、 効率的に商法的考え方を身に付けよう。



商法演習、ほか
三枝 一雄

【経歴】明治大学法学部卒、司法修習修了、元裁判官(1962～1965年) 法学博士(明治大学)
【研究分野】会社法
【研究テーマ】商法の歴史的研究
【主な著書】『明治商法の成立と変遷』(三省堂)、『論点整理・会社法』(法律文化社)ほか多数

30年余にわたり司法試験の指導も行い、 多数の法曹を育成した。さらに燃えたい。



民事訴訟法、民事訴訟法演習ほか
納谷 廣美

【経歴】明治大学法学部卒、東京大学大学院法学政治学研究所修士課程修了、司法修習修了(第20期) 弁護士(第一東京弁護士会)
【研究分野】民事訴訟法、司法救済論
【研究テーマ】民事訴訟法の分野では、新しい私的紛争の出現をうけて「不法行為型訴訟の特質」を研究し、伝統的民事訴訟法理論の限界を指摘し、理論の再構築を試みている。
【主な著書、論文】『民事訴訟法(現代法律選書7)』(創成社)、『法的観点指摘義務』(石川明先生古稀祝賀『現代社会における民事手続法の展開(上巻)』商事法務)ほか多数

基本に忠実であるとともに、大胆かつ 柔軟な発想をすることができるように。



民法(総則、契約)、民法(財産権)
医事・生命倫理と法 ほか
新美 育文

【経歴】名古屋大学法学部卒、名古屋大学法学研究科修士課程修了
【研究分野】民事法、医事法、環境法
【研究テーマ・活動実績】科学と法、アジア法整備支援を核とした研究活動
【主な著書、論文】『分析と展開・民法』(弘文堂)、『医師の過失 医療水準論を中心に』(法律論叢71巻4・5合併号)、『個人情報保護基本法大綱 アメリカ・EUとの対比』(ジュリスト1190号)、『インフォームド・コンセントに関する裁判例の変遷』(年報医事法学16号)、『消費者契約法と医療』(からだの科学)ほか多数

法律実務には、徹底した論理と柔軟な常識が 必要です。この両面を磨きましょう。



家族法、民法演習ほか
平田 厚

【経歴】東京大学経済学部卒、司法修習修了、弁護士(第二東京弁護士会)
【研究・活動分野】家族法、社会福祉法、都市法
【研究テーマ・活動実績】超高齢社会における家族のあり方、公と私、公共性と個人主義原理について、民法・社会福祉法の両面からアプローチし、総合的な社会構成原理を考察している。
【主な著書】『新しい福祉の支援と民事の支援』(簡井書房)、『知的障害者の自己決定権』(エンパワメント研究所)、『これからの権利擁護』(簡井書房)ほか多数

法科大学院での生活を、自らの意欲と努力で、 いかに充実させるかです。



法曹倫理、民事訴訟法演習ほか
増田 嘉一郎

【経歴】明治大学法学部卒、司法修習修了(第25期) 弁護士(第一東京弁護士会)
【活動分野】一般民事(主に企業法務、倒産処理、民衆事業、リース取引等)
【活動実績】1977年第一東京弁護士会調査室嘱託、1994年司法研修所民事弁護教官、1998年日弁連司法修習委員会委員、副委員長、2001年第一東京弁護士会副会長、2003年日弁連非弁提携弁護士問題対策委員会副委員長などを歴任。
【主な著書、論文、業績】『問答式・建築工事紛争予防・解決の手引』(新日本法規出版)、『FACE・債務者の不動産を担保にとる方法』(総合法令)、『慰謝料請求事件データファイル』(新日本法規出版)、『弁護士自治権に関する研究』(第一東京弁護士会司法研究叢書4)ほか多数

柔軟に学びつつ試行錯誤する勇氣、 切磋琢磨する元気ある諸君に期待します。



民法法総合講義、法曹実務演習ほか
明石 一秀

【経歴】明治大学法学部卒業、司法修習修了、弁護士(東京弁護士会)、税理士
【活動分野】企業法務、事業再生
【活動実績】民商法のみならず独禁法・取組法等の関連法及び会計上税務上の問題との関連性を考慮した総合的解決の立案提示、債務株式化等を活用する事業再生
【主な論文】『債務超過会社の債務株式化』(弥永真生教授との共同論文、企業法学第8巻)、『債務の株式化と会計上の評価』(企業会計2002年10号)ほか多数

法理論と実務を架橋し、具体的な問題を 解決できる法的分析能力を育成したい。



事実と証明(民事) 法文書作成
江口 とし子
(派遣要請手続中)

【経歴】東京大学法学部卒、司法修習修了、判事(現在、司法研修所教官)
【活動分野】民事裁判
【活動実績】公刊された担当著名事件：東京地裁富士高校放火事件無罪国家賠償請求事件判決、静岡地裁浜松支部遠州じん肺損害賠償請求事件判決。司法試験審査委員(担当・民事訴訟法)。
【主な論文】『裁判と裁判官』(『民事保全法の理論と実務(上)』ぎょうせい)、『明渡裁判、行政法執行』(『公用負担・建築基準関係訴訟法』青林書院)ほか多数

進化し、複雑化する「法化社会」に 即戦力として通用する法律家を目指そう!



民事訴訟法演習、模擬裁判ほか
山崎 雄一郎

【経歴】明治大学法学部卒、司法修習修了(第47期) 弁護士(東京弁護士会)
【活動分野】民事訴訟、倒産、保険法等
【活動実績】東京弁護士会法曹養成センター委員(1998年～現在、2003年度副委員長)、司法研修所所付(1999～2002年、民事弁護担当)
【主な業績】民事弁護ビデオ教材破産管財実務(2001年司法研修所)脚本、編集等

COLUMN / 知的財産

知的財産立国を支える気概のある法曹を育成したい。

産業技術の発明や文化作品の保護は、欧州の中世に始まります。アメリカでは建国の際の憲法に、発明の保護がうたわれています。アメリカはモノづくりの製造業がかつての力を失い、他方、特許権や著作権に守られる権利が、中国等に侵害されて模倣品が横行することに危機感を高め、ここ20年来プロパテント(特許保護強化)政策を産・官・学の共同戦略として展開しています。特許権の他に、映画の著作権期間の50年から70年への延長の例にみられるように著作権の保護・強化にも力を入れています。さらに不正競争防止法でトレードシークレット(営業秘密など)の保護や経済スパイ法制定にみられるように、財産

的価値のある情報をひろく知的財産として強い保護を与えようとする各般の政策を打ち出しています。

インターネット・デジタル技術による高度情報化社会の進展は、プログラム特許の拡大や特許権出願と権利侵害の国際化を促しています。

わが国では、平成15年に知的財産基本法が施行され、不正競争防止法の営業秘密への刑事罰の導入が伴われ、政府の知的財産戦略本部から特許審査と知的財産に係る裁判の迅速化を図る重要な施策が提案されています。また、企業サイドでも、知的財産部門を経営の重要な柱として位置づける動きが顕著になっています。

アメリカでは、知的財産専門分野で約700人の裁判官、約17,000人の弁護士が存在します。わが国はそうした人材が極めて希薄です。こうしたなか、明治では、将来の知的財産専門の法曹家や企業法務家の育成に力を入れて参ります。特許事務所では弁護士や弁理士の指導の下に特許出願の中心である明細書の作成などを学び特許庁の審査・審判実務を研修し、また審決事例を学習します。さらに知的財産に係る重要な判例研究を行います。知的財産の国際的展開に対応できる国際交渉力を身につけるべく、アメリカのロースクールなどとの単位交換など連携を深めていくことも検討しています。

「法科の明治」の名を再び喚起させるほどの指導を徹底したい。諸氏の奮起を望む。



刑法、刑法演習ほか
津田 重憲

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科修士課程修了、専修大学大学院博士課程単位取得退学
【研究分野】刑事法
【研究テーマ】違法阻却事由である正当防衛および緊急救助（他人のための正当防衛）を中心に、その歴史的展開や現代の問題点を研究中。特に、緊急救助の比較法的考察に眼目を置いている。
【主な著書】『正当防衛の研究』（時潮社）『緊急救助の研究』（成文堂）『緊急救助の基本構造』（成文堂）『ゼミナール刑法（総論）・〔各論〕』（共著、成文堂）『刑法総論講義第3版』（共著、成文堂）ほか多数

あるべき法曹を目指して地道に努力する人を支援します。



刑法、刑法演習ほか
須之内 克彦

【経歴】関西学院大学法学部卒、関西学院大学大学院法学研究科修士課程修了、京都大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】犯罪論の基本問題
【研究テーマ】現代社会における刑法の機能（法益論ないし違法阻却論的アプローチ）
【主な著書、論文】『改訂版・刑法各論』（共著、高文堂）『スポーツ上の傷害と刑法』（愛媛法学会雑誌11巻2号）『被害者の瑕疵ある意志に基づく行為の取扱いについて』（大野真義先生古稀祝賀『刑事法学の潮流と展望』世界思想社）ほか多数

「田舎の3年、京の3日。」明大LSが皆さんの都でありますように。



刑事訴訟法、刑事訴訟法演習ほか
洲見 光男

【経歴】中央大学法学部卒、早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】比較刑事法
【研究テーマ】任意捜査と権利制約の限界
【主な著書、論文】『刑事訴訟法』（共著、信山社）『アメリカ刑事判例研究第1巻～第4巻』（共著、成文堂）『修正4条による裁量統制手法』（『光藤景政先生古稀祝賀論文集』成文堂）『任意捜査と権利制約の限界』（刑法雑誌39巻2号）『薬物検査の適法性 連邦最高裁判決を手がかりとして』（判例タイムズ815号）『自動車検問の適法性』（鈴木義男先生古稀祝賀『アメリカ刑事法の諸相』成文堂）『行政捜査と修正四条 事業所への立ち入り検査を中心として』（『西原春夫先生古稀祝賀論文集第4巻』成文堂）『修正四条の適用判断と『明白な準則』』『捜査』該当性判断を中心として（『三原憲三先生古稀祝賀論文集』成文堂）ほか多数

社会から求められている法曹を多数輩出できるように熱意を込めて指導したい。



刑法、刑法演習ほか
川端 博

【経歴】明治大学法学部卒、東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了、司法修習修了、法学博士（明治大学）
【研究分野】刑法及び刑事訴訟法
【研究テーマ】犯罪論の基本構造と犯罪の成立要件の解明、刑事訴訟の構造と運用の解明
【主な著書】『刑法総論講義』（成文堂）『刑法各論概要』（成文堂）『刑事法研究（第1巻～第7巻）』（成文堂）『刑事訴訟法』（共著、創成社）『刑法判例演習教室』（一粒社）『レクチャー刑法総論』（法学書院）ほか多数

スループスを出します。ヘディングでゴールを決めてください。



刑法、刑法演習ほか
増田 豊

【経歴】早稲田大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】刑法、法理論、心の哲学
【研究テーマ】責任と刑罰、刑法と心身問題
【主な論文】『刑事手続における表見証明のデフォルト構造と事実の社会的・物語の構成』（法律論叢73巻2・3合併号）『意志自由問題への神経哲学的ストラテジー』（法律論叢74巻6号）ほか多数

刑事手続の真の理解のために必要な多角的アプローチを習得してもらいたい。



刑事訴訟法、刑事訴訟法演習ほか
山田 道郎

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
【研究分野】刑事手続法
【研究テーマ】刑事証拠法の比較的研究、現行刑事手続の現状分析と改革
【主な著書、論文】『刑事訴訟法』（共著、信山社）『証人審問権と伝聞法則』（法律論叢70巻4号）『以前的一致供述による証明力の回復』（三原憲三先生古稀祝賀論文集）『共犯証拠とその補強』（法律論叢65巻2・3合併号）『立証趣旨の拘束力』（法律論叢73巻2・3合併号）ほか多数

明治大学法科大学院の恵まれた環境で、精一杯努力してください。必ず結果はついてきます。



刑事訴訟法演習、模擬裁判、事実と証明（刑事）ほか
上野 正雄

【経歴】明治大学法学部卒、司法修習修了、元裁判官（1994～2003年）
【研究分野】犯罪学（刑事政策）、少年法
【研究テーマ】犯罪統制活動における諸問題及び少年法・少年事件について研究
【活動実績】裁判官として、刑事事件について延べ3年間及び少年事件について同4年間のそれぞれ実務経験があり、その間、多種多様な事件を担当した。また、民事事件についても訴訟、執行・保全、破産・再生等の事件を担当した。

学問と実務の架橋を目指し、習得した知識の実務での応用を手助けします。



刑事法総合指導（刑法）、法曹倫理ほか
鶴田 小夜子

【経歴】京都大学法学部卒、司法修習修了、検事（現在、仙台高等検察庁総務部長）
【活動分野】刑事手続法
【活動実績】検事として、捜査10年間、公判13年間の実務経験があり、甲府信金OL誘拐事件等の身代金目的誘拐殺人事件、強盗殺人事件、保険金目的殺人事件等の粗暴犯、脱税贈収賄等の知能犯の捜査・公判を多数担当した。また、弁護士としても5年間の実務経験があり、一般民事、刑事及び家事事件を担当した。

COLUMN / 国際

アジア諸国の法整備支援も視野に入れた教育。

弁護士業務の国際化には二方向があります。その一つは、日本国内で生活する外国人に対する法的サービスです。具体的には、法の不備や知識の無さから正当な権利を行使しかねている人々に、援助の手を差し伸べる等の業務です。難民認定、不法滞在、強制退去等の単語がテレビ、新聞等で頻発する今日、この問題は社会の大きな課題となっています。他の一つは、いわゆる海外において諸外国を相手とする業務です。日本は欧米を始め世界各国にさまざまな形で人と企業が進出しています。それぞれが安定した活動をするためには、法的援助が欠かせません。顧問弁護士を抱える大企業はさしたる問題もないでしょうが、

その関連で進出する中小企業は異なる法制度の下で操業が危ぶまれる事態に追い込まれることも無いとは言えません。進出した企業を補佐する日本人弁護士の活躍の場がここにあります。また、現地で取引先会社から正当な対価を得られるよう支援するなど、健全な企業を育てることも期待されます。国内であれ海外であれ、国際業務を行う際に留意しなければならぬことは、相手方の社会を理解し文化を尊重し法制度を知ることです。さらには、法は弱者の権利を保護するシステムであることを念頭に、その側に立ち続けることを旨とし、機械的公式的な法の適用で事物を解決することなく、自分の頭で考えて援助を求める人

の心情をも汲み取って結論を出すような法律家になって欲しいと思います。

21世紀はアジアの時代と言われていますが、それらの国々の中には残念ながら法的整備が十分になされていないと言え難い国もあります。法整備支援も視野に入れてそれらの国の法を研究する科目を設け、将来それらの国で活躍する本校出身の弁護士をバックアップしたいと考えています。また、それらの国から本学への留学を積極的に促し、人的交流を深めることにも貢献したいと考えています。特に、通商法関係の問題解決には人脈の有無が大いに関する現状もあり、この点は重要だと思います。

法曹として、社会に貢献しよう!! 司法試験合格の道案内をつとめたい。



刑事訴訟法、事実と証明
(刑事)ほか

小林 芳郎

【経歴】明治大学法学部卒、司法修習修了(第18期)、弁護士(東京弁護士会)
【活動分野】刑事訴訟法
【活動実績】弁護士(東京弁護士会)、司法研修所教官(1987-1989年、刑事弁護担当)、司法試験考査委員(担当・刑事訴訟法)、東京弁護士会司法修習委員長などを歴任。明治大学法学部にて兼任講師をつとめる。

刑事を担い、行政を制御できる バランスある能力は、「法曹」の核心です。



刑事訴訟法演習、公法系総合
演習(行政法)ほか

倉科 直文

【経歴】東京大学法学部卒、司法修習修了、米田ベンシルバニア大学ロースクールLL.M.、弁護士(第二東京弁護士会)
【活動分野】刑事訴訟法、自治法・国家賠償法、保険法
【活動実績】多様な刑事事件の経験を踏まえ、理論と実務のあり方を研究。司法研修所刑事弁護教官を勤めた(1996-1999年)、地方自治体に関する訴訟その他の法律問題も日常的に担当し研鑽。
【主な著書】『刑事尋問技術』(共著、ぎょうせい)、『新刑事手続』(共著、悠々社)、『企業犯罪と経済犯罪』(共著、民法研究会)ほか多数

正確な知識・キレのある実務能力、 バランス感覚を身につけた法曹を目指そう。



模擬裁判、法曹倫理、刑事法系
総合演習(刑事訴訟法)ほか

金野 志保

【経歴】東京大学法学部卒、司法修習修了(第43期)、弁護士(第一東京弁護士会)
【活動分野】民事・商事・刑事
【活動実績】司法研修所所付(1997-2000年、刑事弁護担当) 司法研修所特別講義講師、警察大学校講師、日弁連司法修習委員会幹事、第一東京弁護士会司法修習委員会修習幹事
【主な著書】『ネット告発 企業対応マニュアル』(毎日コミュニケーションズ)、『インターネット法律相談』(アスキー出版局)、『よくわかるPL法』(総合法令)、『債権の保全と回収の手引』(新日本法規出版)(すべて共著)ほか多数

人間の問題として 法律を考える学生に出会いたい。



法哲学、ジェンダーと法
ほか

土屋 恵一郎

【経歴】明治大学法学部卒、明治大学大学院法学研究科修士課程修了
【研究分野】近・現代における法の理念
【研究テーマ】18世紀イギリス功利主義の研究と現代の正義論・自由論研究、性と法の関係の理論的研究
【主な著書】『社会のレトリック』(新曜社)、『ベンサムという男』(青土社)、『独身者の思想』(岩波書店)、『正義論/自由論』(岩波書店)ほか多数

基本的な法律科目をしっかりと習得し、 幅広く深い教養をもっとほしい。



法情報調査、サイバー法
ほか

夏井 高人

【経歴】山形大学人文学部経済学科卒、司法修習修了(第35期)、元裁判官(1983-1997年)、弁護士(東京弁護士会)
【研究分野】法情報学、サイバー法
【研究テーマ・活動実績】サイバー法(ネット犯罪、電子商取引、デジタル知的財産権等)、法情報学(法情報の基本理論、XML応用情報DBの構築等)
【主な著書】『電子署名法 電子文書の認証と運用の仕組み』(リックテレコム)、『ネットワーク社会の文化と法』(日本評論社)、『裁判実務とコンピュータ』(日本評論社)、『リーガルリサーチ』(共監、日本評論社)ほか多数

~現在、北京の中国人民大学法学院で 在外研究中です。4月から教鞭をとります。~

木間 正道

【主な担当授業科目】比較法制度論 (アジア)
【経歴】早稲田大学政治経済学部卒、早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了、早稲田大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学、法学博士(北海道大学)
【研究分野】中国憲法史の研究
【研究テーマ】現代中国の憲法・国家制度を中心とする比較法的研究
【主な著書】『中国法入門』(三省堂)、『現代中国の法と民主主義』(勁草書房)、『現代中国法入門』(第3版)』(有斐閣)ほか多数

グローバル化の中、法律家として能力・人格 ともに国際的に通用する法曹を目指してもらいたい。



比較法制度論 (アメリカ)、
国際取引法、法文書作成ほか

鈴木 修一

【経歴】名古屋大学法学部卒、米田ワシントン大学ロースクールLL.M.、ニューヨーク州弁護士、外国法事務弁護士
【活動分野】国際企業取引、国際訴訟
【活動実績】米田を中心として、企業買収、合併事業、プロジェクトファイナンス、企業融資取引、その他各種国際企業取引、並びに独占禁止法訴訟を含む国際訴訟の実務に従事。

実務を通じて生きた法律学の習得を目指す。 学生諸君には常に「余裕」の気持ちを!



企業実務と法・金融取引法ほか

松本 貞夫

【経歴】中央大学法学部卒
【研究分野】銀行取引に関する法律問題、判例等の研究
【研究テーマ・活動実績】電子的手段を用いた資金移動取引の中心である振込取引の法律問題を出发点として各種の電子資金取引の法律問題の研究。金融法学会理事、全国銀行協会各種の銀行取引約款の制定に携わった経験をもつ。
【主な著書、論文】著書:『銀行取引法概論』、『詳解内国為替』(いずれも経済法令研究会)、論文:『手形の決済資金確保のために行った振込相戻しの適否』、『現代企業・金融法の課題(上)』(信山社)ほか多数

COLUMN / 環境

将来世代へ引き継ぐ環境に責任を持てる法曹を育成したい。

環境法は、ヒトの生命・健康や財産のほか、動植物、生態系等を含めた環境自体に法的価値を認め、より豊かな国民生活とより高い水準の質の環境を両立させることを目的として、法的な観点からアプローチする学問です。このような目的を達成するには、我々のライフスタイルを改め、社会・経済構造自体を変革するための法制度の在り方を模索することが求められます。たとえば、持続可能な発展を可能とする国際的・国内的な法制度、資源、エネルギー、土地等の効率的利用を目指す循環型社会・経済への変革を可能とする法制度、事業アセス、戦略アセス等の将来展望型社会の構築に向けた法制度、

環境負荷に起因する損害ないしリスクの未然予防・最小化を実現するための法制度等々の在り方を研究対象とし、研究を通じて、将来世代を含めた人々により豊かな社会・経済像を描き、かつ、実現するための基礎的な法的素養を蓄積することを目指します。その一方で、環境負荷による損害が発生するおそれが生じ、または実際に生じた場合の措置の在り方についても研究します。

環境法の領域では、法律学以外の学問分野について基礎的な知識を求められます。たとえば、環境保全の目標を設定するうえでは環境負荷とヒトの健康あるいは環境に対する影響ないしリスクとの関

係について、また、事後的な被害者救済を図るうえでは環境負荷と損害との因果関係について、その時点における科学の到達点を踏まえたうえで政策判断、法的判断が求められます。それ以外に、現代の環境法は、国際的な環境保全戦略あるいは国際競争力の強化といった国家戦略と関連づけられることが不可避ですから、このような学問分野におけるものの考え方を理解することも不可欠で、これらのことは、環境法研究を通じて行政における環境政策決定の場、企業における環境保全の領域を目指す場合に限らず、法曹界を目指す場合も例外ではありません。

**グローバルな視点と地に足のついた活動ができる
環境法務に特化した法曹の育成に尽力いたします。**



環境と法・行政法演習ほか
柳 憲一郎

【**経歴**】中央大学法学部卒、筑波大学大学院環境科学研究科修士課程修了
【**研究・活動分野**】環境法政策、環境アセスメント、自治体環境法務支援
【**研究テーマ・活動実績**】環境法政策に関する研究、欧州の環境法研究、発展途上国の環境法研究。現在、環境法政策学会理事、環境アセスメント学会常務理事・事務局長、参議院環境調査室客員調査員、東京都環境影響評価審議会委員、浦安市環境審議会会長。
【**主な著書**】『環境アセスメント』(清文社)『環境法政策』(清文社)『企業のための環境法』(有斐閣)『多元的環境問題論』(ぎょうせい)『環境アセスメント読本』(ぎょうせい)ほか多数

**世の中と国民を豊かにする
法曹を目指してほしい。**



環境法
松村 弓彦

【**経歴**】一橋大学法学部卒、博士(法学・一橋大学)
【**研究分野**】環境法全般(殊にドイツ環境法)
【**研究テーマ**】環境責任(殊に因果関係論)、科学的の不確実性と法的評価、環境協定、土壌保全
【**主な著書**】『環境訴訟』(商事法務研究会)、『環境法学』(成文堂)、『環境法』(成文堂)、『ドイツ土壌保全法の研究』(成文堂)ほか多数

精緻な法解釈論の構築の上に社会と世界の現実を見据えた政策提言のできる人材の育成に寄与したい。



独占禁止法、比較法制度論(ヨーロッパ)
高橋 岩和

【**経歴**】早稲田大学法学部卒、早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、法学博士(早稲田大学)
【**研究分野**】独占禁止法、経済法
【**研究テーマ**】独占禁止法の国際的調和に係る問題の研究を主に行っている。知的財産権の権利行使、公益事業の規制緩和、協同組合と独禁法の関係などのテーマをあわせて研究している。通商法、消費者法の領域の研究も行っている。
【**主な著書**】『ドイツ競争制限禁止法の成立と構造』(三省堂)、『協同組合と法』(共著、三省堂)、『現代経済法』(共著、三省堂)ほか多数

**実践力と専門性を兼ね備えた法律家を
育成する講義に重点を置きます。**



知的財産と法・立法と政治、行政法演習ほか
棚橋 祐治

【**経歴**】東京大学法学部卒、元通商産業事務次官
【**研究・活動分野**】特許法を中心とする知的財産法等
【**研究テーマ**】情報化と技術革新化における特許権概念の変遷と特許制度の改革の方向についての研究、不正競争防止法における営業秘密の保護に係る判例研究と類型化
【**主な論文・業績**】論文:特許侵害訴訟等に関する最高裁判例の最近の動向、業績:通商産業省時代に数次にわたる特許法の改正や不正競争防止法の改正に従事

**「法律家」の狭い枠にとらわれず、
社会変革の志をもった人に育てほしい。**



ジェンダーと法 - ほか
角田 由紀子

【**経歴**】東京大学文学部卒、司法修習修了、弁護士(静岡県弁護士会)
【**研究・活動分野**】法とジェンダーの関わり
【**研究テーマ・活動実績**】性暴力被害者の権利擁護活動から出発し、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなどについて理論の構築と、弁護士としての実践活動を行った。
【**主な著書、論文**】『性の法律学』、『性差別と暴力』(いずれも有斐閣)、『セクハラ裁判の現状』(弁護士研修講座東京弁護士会・商事法務)、『性暴力と法』(法社会学54号)、『刑事弁護と被害者保護』(日弁連研修書)ほか多数

**何のために、どんな法曹を目指すのか?
その自問を忘れないことが大事だ!**



民法(損害賠償法)、医事・生命倫理と法 - ほか
鈴木 利廣

【**経歴**】中央大学法学部卒、司法修習修了(第28期) 弁護士(東京弁護士会)
【**研究分野**】医療過誤法、医事法
【**研究テーマ・活動実績**】医療被害の予防と救済、患者の権利・人権論、担当医療過誤民事訴訟(原告側)多数、医療問題弁護団代表、薬害エイズ事件被害者弁護団事務局長、薬害オゾンパースン会議代表
【**主な著書、論文**】『医療事故の法律相談』(共著編、学陽書房)、『研修叢書40・医療訴訟』(共著、商事法務)、『薬害エイズ裁判史』(共著、日本評論社)ほか多数

**実践・理論・常識・倫理をバランス良く兼ね備えた
役に立つ法律家になろう。**



企業実務と法・法曹実務演習
清水 良容

【**経歴**】一橋大学法学部卒
【**研究分野**】企業法務、金融法務
【**研究テーマ・活動実績**】金融取引と法律、コーポレート・ガバナンスと法律ほか。旧日本興業銀行法務部で国内・海外双方の法務問題を担当。政府系金融機関で審査業務担当を指導した経験をもつ。
【**主な著書**】『金融取引実務ハンドブック(上・下)』(共著、金融財政事情研究会)、『国際取引ハンドブック』(共著、有斐閣)ほか多数

**これからは知的財産の時代。文理融合型の
「知的財産法曹」を目指してみませんか。**



知的財産と法 -
高倉 成男

【**経歴**】京都大学工学部卒、京都大学大学院工学研究科修士課程修了
【**活動分野**】知的財産政策、特許実務
【**活動実績**】現在、特許庁課長。最近まで内閣府にて知的財産戦略の策定に従事。1990年代に国際知的財産交渉を担当。APEC知的財産専門家会合など国際会議の議長を歴任。大学における教育実績あり。
【**主な著書、論文**】『知的財産法制と国際政策』(有斐閣)、『生物資源と知的財産権』(知財管理2002年3月号)、『生物多様性条約の技術移転条項』(知財管理2002年4月号)、『貿易と知的財産権=ポスト・ドーハの課題と展望』(国際問題2002年9月号)、『科学技術政策と知的財産法制』(L&T第16号)ほか多数



明治大学法科大学院設置準備室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL. 03-3296-4318・9

<http://www.meiji.ac.jp/>